

「専門性を発揮し、安心した暮らしにつなぐ協同の医療」

—対話し、寄り添い、地域と共に“暮らし”をささえる—

1 対話し、受け止め、寄り添い、つなげる姿勢を大切にします

- 1) 患者・地域・職員が協同して意思決定を行い、一人ひとりの暮らしに根差す医療を提供します。
- 2) 病気だけでなくその人や家族の背景にある暮らしを受け入れ、地域でくらす人々の声やニーズを受け止めることで、安心して生活できる医療を提供します。
- 3) 医療・介護・地域がつながり、「おたがいさまの力」で、誰もが自分らしく安心して暮らし続けられるまちづくりに貢献します。
- 4) 多様性を尊重し、誰でも気軽に相談できる医療のセーフティネットを広げます。

2 急性期から在宅まで、地域のニーズに合わせた医療体制の充実を図ります

- 1) 法人内外の医療機関・行政・施設・その他団体等あらゆる連携を強め、地域全体でささえる医療の実現を目指します。
- 2) 高齢者救急・地域急性期機能の拡充を図ります。
- 3) 地域に根ざした回復期リハビリテーション機能の拡充を図ります。
- 4) 医科・歯科診療所のかかりつけ医機能を高め、訪問看護ステーションとの連携による在宅医療の拡充を図ります。
- 5) ケンケンサイクルをより広げ、地域まるごと健康づくりをめざします。

3 専門性を発揮し続けられる環境を整えます

- 1) 職員一人ひとりが専門性を発揮し、患者の暮らしを想像できる力を育てます。
- 2) 必要な人材の確保、教育の充実を通して、やりがいのある職場づくりに取り組みます。
- 3) 医療 DX・ICT の活用など、医療の質を高め守るためのインフラ整備を進めます。
- 4) 立場を超えて患者・利用者の最善の利益を追求する連携を強化します。
- 5) 災害リスクと向き合い、組合員・職員一丸で防災への取り組みを強化します。

「在宅をささえる 地域とともにつくる協同の介護」

－孤立させない、介護と地域がつながり、最期まで“暮らし”をささえる－

1 介護職として様々な変化に気づく視点を持ちます

介護の現場でも地域生活の場でも、日々様々な変化や困りごとが生じます。その変化や困りごとに早期に“気づく力”は介護職の専門性の一つです。介護職として、「観る」技術を高め、些細な変化を見逃さず、最期までその人らしさを大切にしてくらしをささえます。

2 ひとりに寄り添いあうチームケアを進めます

介護職員は「話す」「聴く」技術を養い、利用者との会話を楽しみ、笑顔や想いを引き出し、叶えます。また困りごとであれば解決できるように働きかけます。しかし、介護現場でも地域生活の場でも一人の支援者での実現は困難です。そのため職員はチームでケアをする意識を高め、専門職と組合員、おたがいさまの家、地域住民などつながりを持ち、チームでひとりに寄り添う協同の介護を提供します。

3 暮らしをささえるプロフェッショナルを育成し、定着を目指します

暮らしを「ささえる」ためには、介護のプロフェッショナルの存在が不可欠です。南医療生協では、みな 1000 運動で職員の紹介を広げてきました。これからの 5 年後やその先を見据え、組合員と協同して職員の確保に努めます。また事業の安定化のためにも、次世代の職員育成と定着、職場環境整備を進め、質の高い介護が提供できるようにして、ケアを必要とする多くの方に介護事業所の利用をしていただけるよう努めます。

「おたがいさまでつながる多世代のまち」

—生まれてから最期まで、地域でささえあいながらくらし続けられる社会へ—

1 健康も不安も、地域でささえあえる「くらしの充実」を進めます

- 1) 心も身体も健康という、新しい健康観にもとづき、ケンケンサイクルを回す支部・班の取り組みで、元気にくらし続けられる活動を進めます。
- 2) 健康や老い、死について語り合える場を広げます。
- 3) 動けなくなっても安心して生活できる環境づくりを目指します。
- 4) 多文化・多世代がつながり、孤立を生まない地域づくりを進めます。
- 5) 防災・防犯・子育て・外国人支援など、地域課題に協同で取り組みます。
- 6) そのうち学校をつうじて、協同の学びを広げます。
- 7) 他法人や地域団体と協力し、健康づくりや生活支援のネットワークを広げます。

2 「生活支援」とたすけあいの輪を広げ、地域の力を高めます

- 1) おたがいさま運動を法人内外へ広げ、点から面へと発展させます。
- 2) 多世代が気軽に参加できるボランティアを育て、地域のささえあいを強化します。
- 3) 班・支部が地域でつながり、だれでも気軽に相談できるセーフティネットをつくります。
- 4) 班会・サロン・おたがいさまの家などの居場所を拠点に、地域と専門職のつながりを強めます。
- 5) 小学校区に一つのおたがいさまの家を目指し、地域の拠点づくりを継続します。